

1 部門目標

安全な麻酔管理を提供できるよう努めること
 他部門や手室のスタッフとコミュニケーションをとって、
 円滑な手術室運営を心がけること

2 業務体制・スタッフ

佐藤由美、吉田亜紀子、蓑輪百合子の3名の常勤スタッフで麻酔業務を担当させていただきました。
 稲葉先生、篠原先生、根橋先生（千葉医療センター）、神山先生（千葉大学）に、
 外勤スタッフとして協力していただきました。

3 業務実績

麻酔管理症例数

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
全身麻酔	1062	1152	1154	963
吸入麻酔	443	447	500	429
完全静脈麻酔	448	525	501	390
硬膜外併用 吸入麻酔	72	81	72	54
硬膜外併用 完全静脈麻酔	99	99	81	90
局所麻酔	235	225	241	257
脊髄硬膜外麻酔	234	216	228	242
硬膜外麻酔	0	2	0	5
脊髄くも膜下麻酔	1	7	13	10
総計	1297	1377	1395	1220

4 1年間の総括

令和2年度は、世界規模でコロナ禍に見舞われた一年でした。正確な情報が得られず、見通しもあいまいなまま、何を指針として行動していったらよいものかと感じることも多かったように思います。そのような状況でも、感染防御グッズ、普段使いの診療材料、薬剤が滞りなく供給されて、外来業務48時間停止、手術業務48時間停止のような事態に陥らずに、日常業務に従事できたことはありがたいことでした。コロナ禍においても、やるべきことを継続できたように思います。また、令和3年8月の時点で気がついた、ヤフーニュースに、医学部受験の地位枠の定員を感染症専門医、救急医希望のひとに振り分けるというトピックがあります。感染症専門医、救急医希望と宣言すれば、別枠で医学部受験に参加できることとなります。もちろん、感染症専門医、救急医の存在の貴重さ、必要性は、当然のことですが、医学部受験からと言われてしまうと10年コロナ対策が、事業計画に盛り込まれているように感じてしまいます。10年？か。10年前の震災後、医学部定員を増やした結果、今戦力となっている若手医師が存在し、10年前の東日本で普通に生活して、仕事して、子育てしていけるのかしらという私の不安は、いつの間にか霧散しています。これから先の10年で、いつの間にか、コロナ禍も過ぎ去っていくことでしょう。ちなみに私が医学部に入学した頃には、エイズウイルスが新型ウイルスとして紹介されており、肺炎のコントロール不能で皮膚の肉腫も発生するといわれていました。(文責 蓑輪百合子)

5 今後の目標

安全な麻酔管理を提供できるよう努めること
他部門や手室のスタッフとコミュニケーションをとって、
円滑な手術室運営を心がけること
今後とも、ご指導のほど、よろしく願いいたします。
最後に、運営方針の転換や、常勤スタッフの交代がありましても、その都度、ご助言をいただきまして、ありがとうございます。